

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公印省略)

平成29年度病害虫発生予察特殊報第2号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成29年度 香川県病害虫発生予察特殊報 第2号

1. 病害虫名： オリーブ立枯病（仮称）
病原名： *Ralstonia solanacearum*

2. 発生作物名： オリーブ

3. 発生地域： 小豆島町、土庄町

4. 発生経過

平成29年8月、複数のオリーブ栽培園で枝や幹の導管周辺部の変色（写真1）及び葉枯れが生じて急速に萎凋枯死する症状（写真2）が認められた。枝や幹の変色部から細菌と考えられる菌泥の漏出が見られたため、神戸植物防疫所に同定依頼したところ、枝や幹の変色部から細菌が分離され、*Ralstonia solanacearum* (phylotype 1 (アジア型)) と同定された。

本病原菌によるオリーブの病害はブラジル・中国等で確認されているが、日本では初めてである。

5. 病原菌の特性

- 1) *Ralstonia solanacearum*は多くの野菜や花き類、その他多数の植物を侵す多犯性の病原細菌で、日本においてもトマト、ナス、ジャガイモなどのナス科植物、ダイコン、イチゴ等で発生を認めている。生育温度は10～41℃で、夏期高温になると発生しやすい。
- 2) オリーブでの感染経路は現在のところ不明であるが、野菜類では土壤中に生息している病原細菌が根にできた傷から侵入して維管束部分で増殖し、水分や養分の移動を阻害して植物体を萎凋させる。また管理作業中にハサミなどに病原細菌が汁液とともに付着して健全株に二次伝染する。

6. 防除上の注意等

- 1) 本病に対する登録農薬はないため、耕種的防除が基本となる。
- 2) 発病した株や枝は除去し、残渣は圃場内に放置せず焼却するなど適切に処分する。
- 3) 発病や感染が疑われる樹は、剪定等の作業は最後に行う。
- 4) 病原細菌は傷口から感染するため、剪定をおこなった場合には切り口に必ず癒合促進剤を塗布する。
- 5) 剪定バサミやノコギリ等からの感染を防止するため、使用した用具は70～80%のエタノールや次亜塩素酸液などで消毒を行う。
- 6) 園地から出る際は服や帽子及び靴に付いた植物残さや土を払い落とし、靴及び手の消毒を行う。



写真1 幹の断面における導管周辺部の変色症状



写真2 葉枯れ及び枝の萎凋枯死が発生したオリーブ

病虫害防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>